瀬戸内に建つ、400年の歴史

寺とも かわら版

大利山 徳成寺（とくじょうじ）

第228号 2025年12月 発行責任者／住職・大山健児 坊守・大山ひとみ

お坊さんの処方箋・身の程を知る

いつもありがとうございます。住職の大山です。今年も、残すところあと僅かですね。

この一年間を通して、何をお伝え出来たのか、はたまた出来なかったのか振り返る大事な時です。

結局、南無阿弥陀仏のお念仏のこころをお伝え出来たのかどうか。この一点に焦点が絞られて参ります。

この南無阿弥陀仏のこころを頂くことは、「ありがとうございます」の感謝のこころと共通しています。

と申しますのが、私達は日頃何気なく「ありがとう」と感謝したり、感謝されたりしているのですが、その瞬間、瞬間に、自分に何かしてもらったり、何かを頂いたりする資格があるかどうかの自覚があるか否かが、無意識に判断しています。

それが証拠に、「ありがた迷惑」という言葉もあるくらいで、私達は他者の行為を何でもかんでも無条件に感謝しているわけではないのです。

真の感謝とは、何の資格も値打ちもないのにも関わらず、最高のものを惜しみなく頂いたり、してもらったりした時、自然とわき起こります。感謝と身の程を知る事は一体になっているのです。仏さまから遠ざかって生きていたんだなぁと身の程を知ると同時に、そんな遠く隔たった私にまで至り届いて下さる仏様の有難さ尊さに気づきます。それがお念仏なのです。

大山超世の耳を澄ませば　曲線の信心

お世話になります、副住職です。先月、あるお寺で講師として法話をしてきました。私自身の半生と信仰への向き合い方について話しました。

端的に言えば身の回りに起こる全ての事が仏縁であり、縁をこちらまで届けるはたらきが仏様で、そのはたらきに感謝をする事が信仰なのではないかという話でした。

回りくどい表現かもしれませんが、平成生まれの私にとって宗教のイメージは割とマイナス寄りです。1990年代のオウム真理教事件、2001年アメリカの9・11、近年だと首相の暗殺事件の遠因となる等、主観に基づいた直線的な信仰が他者を傷つける場面を度々見かけるからです。

そういう背景もあって真正面から信心や信仰という事を語る事はできないと感じているのですが、だからこそ仏縁が他者や環境を通じて、自分の元に届いてくる緩やかな曲線のはたらきにありがたさや尊さを感じたいと思いました。写真は妻の得度式の様子です。彼女も縁があって、今年、新しく仏弟子となりました。門徒さんの仏事でお目にかかる機会もあろうかと思いますので、その時はどうかよろしくお願いします。

初めて直綴（じきとつ）を着る妻